

2013

ANNUAL REPORT  
2013.04.01 - 2014.03.31

地域 × 若者 = とちぎの新しい物語

NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

VISION -目指すべき社会-

それぞれの強みや違いを活かし、繋がり合い、主体的に未来を創る行動に溢れるいきいきとした社会

MISSION -社会的使命-

若者の力を活かして地域の課題解決/活性化を加速させる

CONCEPT -視点-

- 【現場】 社会を創る実践者や課題と、若者とのリアルな接点
- 【役割】 必要とされるチャレンジの場
- 【現場】 若者のチャレンジを支え合うソーシャルキャピタル

未来・可能性  
希望の創造  
現状を突破するヒント  
社会の活性化、新陳代謝

チャレンジの意義

個の力の発揮・社会認識  
当事者意識・絆・仲間  
人の大切さ・意欲・自信  
責任感・自己成長

CONTENTS

3	組織概要・TEAMユーススタッフ
4	2013年度を振り返って 2013年度総括
5	プロジェクトの位置づけ
6	活動報告(CHALLENGEを創る事業) (1)・・・GENBA CHALLENGE (2)・・・iDEA→NEXT (3)・・・被災地の仕事づくりを加速させる。 若者による復興支援グッズの販路拡大と新商品の開発プロジェクト 2 <sup>nd</sup> シーズン (4)・・・地域中小企業の人材確保・定着支援事業 (5)・・・県協働推進事業 とちぎ県民協働フェスタ2013 (6)・・・その他の事業 トチギ遊学・green drinks Utsunomiya・まちなか元気若者会議 とちぎ学生未来創造会議・日本ボランティアコーディネーター研究集会2014
13	活動報告(CHALLENGEを支える事業) (7)・・・ホン de チャレンジ
14	活動実績 ・参加者数等・情報発信・メディア掲載
15	TEAMユースメンバーズ ・メンバーの声・支えてくださっている団体・企業のみなさま
16	財務報告 ・活動計算書 ・賃借対照表・財産目録

団体名： 特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク（愛称：TEAMユース）  
 代表者： 岩井 俊宗  
 住所： 栃木県宇都宮市宮園町8-2 松島ビル2F Tel/Fax： 028-612-3341 E-mail： ysn\_office@tochigi-ysn.net  
 設立： （任意団体）2008年7月1日 （法人化）2010年4月1日  
 スタッフ体制： 常勤2名、非常勤2名  
 会員数： 正会員(個人)46名、正会員(団体/企業)3社、賛助会員(一般)15名、賛助会員(団体/企業)3社（2014.03.31現在）

理事/役員：

代表理事	岩井 俊宗	(NPO法人宇都宮まちづくり市民工房 理事)
副代表理事	塚本 竜也	(NPO法人トチギ環境未来基地 代表理事)
理事	榎本 竹伸	(一般社団法人とちぎ青少年自立援助センター 理事長)
理事	大塚 雅斗	(株式会社キッズコーポレーション 代表取締役)
理事	小久保 行雄	(有限会社ドンカメ 代表取締役)
理事	金井 光一	(NPO法人チャレンジド・コミュニティ 代表理事)
理事	中野 謙作	(一般社団法人栃木県若年者支援機構 理事長)
理事	古河 大輔	(NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク 事務局長)
監事	清嶋 磨利夫	(株式会社キップルネットワーク 代表取締役)

サービス（事業）：

- 若者の自立支援  
 ー既存の自立支援プログラムの支援、新たな支援方法の開発
- 若者の就労支援  
 ー働くことに困難を抱える若者のためのプログラム支援、仕事創出プロジェクト
- 若者の社会参加促進、若者のシティズンシップの向上  
 ーシティズンシップ教育プログラムの開発、普及
- 社会事業の育成事業  
 ーよりよい社会づくりの事業化と人材の育成
- 若者サポートネットワーク構築  
 ー行政、企業、NPO、大学等、組織を越えた総合的若者サポートネットワーク構築
- 若者支援に関する調査研究・政策提言  
 ー社会問題の周知と解決への調査研究及び政策提言

## TEAMユーススタッフ

【スタッフ】



代表理事  
岩井 俊宗

1982年生まれ。宇都宮市出身。宇都宮大学国際学部卒業後、ボランティアコーディネーターとして宇都宮市民活動サポートセンター入職。NPO・ボランティア支援、個別SOSに従事。08年若者の成長の機会創出と持続的に取り組む人材を輩出し、若者による社会づくりの促進を目的に当会を設立。その他、NPO法人宇都宮まちづくり市民工房理事、栃木県社会貢献活動推進懇談会委員等。

【担当事業】 GENBA CHALLENGE、とちぎ学生未来創造会議、他



理事・事務局長  
古河 大輔

1980年生まれ。小山市出身。大学卒業後、名古屋でインテリアコーディネーターとして4年間勤務。その後青年海外協力隊(村落開発普及員)として南米ボリビアに赴任し、収入向上プロジェクトや植林などの環境保全活動に従事。誰もが地域のプロデューサーとなる多様性溢れる地域社会を目指し、現職。その他、NPOトチギ遊学代表、小山市市民活動センター運営委員等

【担当事業】 iDEA→NEXT、復興支援プロジェクト 他



IT  
ファンドレイジング  
石川 慎太郎

1979年生まれ。鹿沼市出身。大学でコンピュータ工学を専攻。IT企業で企画開発および営業企画・マーケティングを担当し、新商品開発や大手企業向けITセキュリティ提案を多数行う。その後、NPO業界に興味を持ち、とちぎボランティアネットワークと日本ファンドレイジング協会にてファンドレイジングを経験。現在は地元栃木県にて、地域の企業やNPOのIT化や情報発信の支援を行っている。NPO法人サバイバルネット・ライフ理事。20カ国を旅したジェットコースターマニア。

プロジェクトサポート  
森 雄史



1983年宇都宮生まれ。駒澤大学を卒業後、あてもなく無職の時代を1年半ほど経て、ユースが立ち上げた学校「とちぎユースワークカレッジ」に1年半ほど在籍。そこでのインターンでユースへ赴いたことが最初のユースとの出会いであり、その後10ヶ月ほどインターンを続ける。インターン終了後は簿記3級の資格取得のために勉強。先日なんとか合格。その後ユースの非常勤スタッフとして招き入れられ、事務や庶務を担当。現在に至る。

【インターン】 渡邊 貴也

【ボランティア】 青木 美枝子、新井 愛菜、伊沢 聡志、宇賀神 雄太、大泉 和也、奥田 裕之、小倉 まこと、菊地 公江、桑谷 寛之、毛塚 エリカ、郷間 梨々加、狐塚 寿浩、後藤 和史、斎藤 竜美、菅谷 聡史、曾根 駿介、富樫 奈美子、土橋 優平、内藤 さつき、二瓶 賢人、濱野 将行、逸見 栞、目黒 雅結、八木 諒平、山口 恵理、山中 隆弘、山野井 理恵、山本 真吾、渡邊 貴也、渡部 裕美子、和田 紋佳

## ✿ 2013年を振り返って

**社会を自らより良くしていきたいと挑戦する若者がいる。  
若者の可能性を信じ続ける先輩がいる。**

2013年を数字で振り返ってみると、プログラム参加者1044名(のべ)、活動時間(人数×プログラム提供時間)6233時間を実施してきました。67名(前年度40名)の会員と31名(前年度41名)の寄付者、16社(前年度24社)の協賛企業、そして277名(前年度214名(のべ))のボランティア等の協力者のご支援があり、実施できたことを、心より感謝申し上げます。

2013年度は、社会貢献したい若者を中心に据えて、その想いを具現化していくための支援事業に注力しました。加えて、ミッションの見直しと事業の体系化を行い、組織の骨格を作り直した1年でもありました。そうしたなか、新たに、よき社会の実現に向けて挑戦している企業や地域団体、行政などから、現状の突破を期待して若者の力を必要としている声があることが見えてきました。よき社会、よき未来のために、若者を必要としているニーズに、今まで皆様と育ててきた「意欲と行動できる若者」の力を繋いでいく仕組みが必要不可欠だと実感した年でもありました。

この新たなスキームづくりには、当会の会員や寄付者からのご支援が必要不可欠になります。よりダイレクトに、よりリアリティのある接点と支援を実現すべく、対話や交流を重視したプログラムづくりにも着手しています。

設立より7年目となる2014年は、よい一層、栃木の社会課題解決や活性化を加速していけるように、会員・職員の力を合わせて進めていく1年にしたいです。そしてその結果、多くの方に、未来がより明るく見えますように。

特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク  
代表理事 岩井 俊宗

## ✿ 2013年度活動総括

- 1** 事務局と会員が一体となってミッションを整理、明文化ができ、集中すべき点が見え、事業を推進できた。



設立から5年を迎え、当初の想いと現在地を鑑み、ミッションを今一度整理するため、会員有志によるミッション会議を実施しました。様々な視点から地域課題の解決や若者の育成などについて議論を交わし、わたしたちが成すべき使命を表現することができました。ミッションが明確になったことで、当会の目指すゴールが見え、活動の軸が定まりました。また伝えやすさや活動の一貫性が、協力者や寄付者などへの認知向上につながることができました。共感が生まれたことで、少しずつですが、若者への期待や若者の力を必要としている現場を掘り起こすことができるようになってきました。その期待を次に繋げて、動きだした渦を広げていくことが更なる活動の広がりには欠かせません。

- 3** 実践型インターンシップが、宇都宮大学様やティビシィ・スキャット様との連携ができ、短期型、チーム型、長期型と体系化ができた。

インターンシップの幅広い受け皿ができることで、若者が自身のキャリアデザインやチャレンジする機会、また地域の課題解決への参画への機会を増やすことができました。若者がより地域へ参画しやすくする仕組みづくりと同時に、若者に期待する支援者や市民が受け入れしやすい仕組みをつくるのが今後の課題です。

- 2** 重点分野に力を入れることで、実践型インターンシップやiDEA→NEXTといった当会の核となる事業が構築できた。



ミッションを実現するための手段として掲げていた、2つの事業。必要とされる現場でチャレンジするインターンシップ。自身もつ課題意識を独自の方法で解決するアイデアコンテスト。このどちらも県内では初の取り組みであり、認知・理解への時間が必要でした。2年を経て、取り組みが浸透しはじめ、機能してきました。これからは2つを軸に多様な若者のチャレンジを生み出し、支える環境を構築することで、栃木をより活性化させていきます。

- 4** iDEA→NEXTを通じて、企業や市民からの支援(賛助企業や審査員、メンターなど)が広がった。

企業経営者からは若者へのアドバイス(相談対応)を頂くことで若者の活動の背中を押し、市民のみなさまからは古本を寄付していただくことで、優秀なアイデアへの活動資金を提供することができました。意欲ある若者を支え、地域で活かすには、企業、行政、教育期間、NPO、市民などそれぞれの業態を越えて、地域を耕していく必要があります。そういった意味でも、引き続き本事業を通じて、若者のアクションを多くの方々のお力を得ながら、すすめていきます。

## \* プロジェクトの位置づけ



## \* プロジェクトリスト

分類	プロジェクト名	期間	予算 / 決算 (千円)
	●実践型インターンシップ「GENBA CHALLENGE」	通年	2980 / 430
	●若者の社会を良くするアイデアプランコンテスト「iDEA→NEXT」	2013年10月～ 2014年3月	700 / 468
	●東日本再生ユースチャレンジプログラム助成事業 「被災地の仕事づくりを加速させる 2nd シーズン ～若者の力による新たな販売ネットワーク構築プロジェクト」 ★復興支援商品販売プロジェクト	2013年4月～ 2014年3月	2990 / 2990 --- / 182
	●地域中小企業の人材確保・定着支援事業（事業協力）	2013年6月～ 12月	3370 / 3054
	●栃木県 協働推進事業「とちぎ県民協働フェスタ 2013 -人と地域を元気にするソーシャルプロジェクト見本市-」の受託運営	2013年 11月3日	--- / 1830
	●その他の取り組み 1) トチギ遊学 2) green drinks Utsunomiya 3) 栃木県まちなか元気会議事業「まちなか元気若者会議」 4) とちぎ学生未来創造会議（共催事業） 5) 日本ボランティアコーディネーター研究集会2014	2013年4月～ 2014年2月	--- / 535
	●講演・ワークショップファシリテーター等	通年	--- / 50
	●ファンドレイズ「ホン de チャレンジ」 ★寄付キャンペーン	通年 2013年12月～ 2014年1月	200 / 125 --- / 167

実践型インターンシップ「GENBA CHALLENGE」



「成長と挑戦」×「価値創造」

まちづくりや社会課題に取り組む組織が抱える“課題の解決”や“次の一手を創る”現場をフィールドにしたインターンシップ。成長意欲のある若者には、“より本質的な力”を、受入組織様には、“社内の変化と新たな価値”を生み出しています。

※インターンシップ…「自らの専攻や将来のキャリアと関連した分野において、主体的役割を果たす事を通じて社会的価値を創造していく精神と力を身につけ、学生生活及び自立的キャリアデザインにフィードバックすること」(当会の定義)

実践型インターンシップ プロジェクト状況

有機農家と消費者をつなぐ「ソザイ新聞」プロジェクト

受入組織：ソザイソザイ  
 期間：2013.05-10  
 内容：化学肥料や農薬を使わない有機農業。生産者と消費者をより近く、それぞれの想いと物語を紡ぐ・繋ぐ・伝えるプロジェクト。  
 参加者：布袋田早紀(宇都宮大学農学部2年)  
 成果：『agriteria』の制作・発行(2号)、掲載者6名

中古本で若者を応援する「ホンデチャレンジ」寄付本調達プロジェクト(ユース7期)

受入組織：NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク  
 期間：2013.05-10  
 内容：「中古本」が寄付に変わり、若者の社会を良くする挑戦を支える仕組みを上げ、「若者の挑戦」と「若者への応援」を加速させていく。  
 参加者：渡邊貴也(社会人)  
 成果：寄付本を集める仕組みづくり、サイトの再構築、寄付本回収場所5か所の確保、インターン中回収冊数3672冊(60名から)等

社員の想いを紡ぐ！保育事業に取り組む企業の新規事業の種を創るプロジェクト(※短期実践型インターン)

受入組織：株式会社キッズコーポレーション  
 期間：2013.09

内容：従業員へのヒアリングを通し、それぞれの現場で感じている(社内や社会の)課題から新規事業の芽(アイデア)を創造する、社内提案プロジェクト

参加者：萩谷竜樹(宇都宮大学国際学部3年)  
 成果：34の事業アイデアを確保、うち1つ事業化へ。

市民参加を広げる！困窮者に食料を届ける「フードバンク」の支援者開拓プロジェクト(※短期実践型インターン)

受入組織：フードバンク宇都宮  
 期間：2013.09  
 内容：食品寄贈や配達など多くのボランティアが活躍する現場で新たな支援者を開拓する。  
 参加者：小野塚夕佳(宇都宮大学国際学部3年) 宮澤将乃(宇都宮大学国際学部3年) 飯野真李亜(東洋大学)  
 成果：フードバンク資金調達プログラム「みんなdeごはん」の開発と継続実施。

障がい者の自立のための営業。ふくふく亭販売向上プロジェクト(※短期実践型インターン)

受入組織：中国料理 ふくふく亭  
 期間：2013.09  
 内容：障がい者の自立に繋がる中華弁当の販売先を広げる。  
 参加者：毛塚エリカ(宇都宮大学教育学部4年)  
 成果：栃木県産業会館での新規取引先の開拓

農産物直売所が農家のためにできることプロジェクト(※短期実践型インターン)

受入組織：株式会社グリーンデイズ農産物直売所「あぜみち」  
 期間：2013.09  
 内容：農家が”輝ける舞台”となっている農産物直売所「あぜみち」で、生産者と消費者のコミュニケーションをさらに充実させるPOP(商品案内)を創る。農家の想いを学生・若者の目線で消費者に届けるプロジェクト。  
 参加者：伊沢聡志(宇都宮大学農学部4年)  
 成果：販売補助、「試食」の提案実施、等

若者のお酒需要を掘り起こそう！※宇都宮大学プログラム 実施協力「チーム型課題発見インターンシップ」

受入組織：株式会社横倉本店  
 期間：2014.02-03  
 内容：若者のお酒需要の落ち込みに対して、需要を掘り起こすための取り組みを提案。  
 参加者：土橋優平(宇都宮大学農学部2年)、湊文香(宇都宮大学農学部3年)、山田竜之介(宇都宮大学農学部1年)、吉田直樹(宇都宮大学農学部1年)、他1名  
 成果：学生のお酒に対するアンケート回収(254名分)、「試し飲み放題」の企画提案。

## 実践型インターンシップ

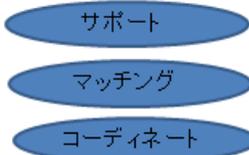
企業・団体の新たな価値創造 (情報、信用、新規顧客、就職希望者、メディア掲載)

自分で考え、動き、チームで働ける人材

300時間程度、社内プロジェクトに参画・実践  
組織成長、人材育成

社会に価値を生み出す次の一手が欲しい。

- ・新規事業の加速、実現可能性の検証
- ・若者の斬新なアイデアの採用(商品開発)
- ・意欲的、挑戦的な企業風土の起爆剤
- ・社員の意欲と責任感を育む
- ・業務アシスタントとしての役割
- ・採用ミスマッチと早期離職リスクの軽減



マインドやスキルなど、社会で活きる力を身につけたい

- ・実践的な社会経験を積みたい
- ・学生生活やアルバイトでは出会えない人と関わりたい
- ・仕事観、働くイメージを創りたい
- ・自分のビジョンを鮮明にしたい



インターンシップ募集 / 申込

面接 / 合意

事前研修 / オリエンテーション

日時：9/01(日)、他  
場所：ユース事務所  
内容：ビジネスマナー、マインドセット事前研修  
参加者：5名

実践型インターン スタート

中間報告

日時：9/10(火)他  
場所：ユース事務所  
内容：短期インターンシップ中間報告  
参加者：5名

修了

成果報告

日時：11/19(火)  
場所：宇都宮大学UUプラザ  
内容：ホンキのインターン他、  
参加者：32名

## 活動した若者の声&活動実績

有機野菜を使ったお惣菜屋「ソサイソウザイ」で消費者と生産者を繋ぐ新聞「agriteria」の企画から取材、制作、発行、配布を行いました。新聞を見て、お店に初めて足を運んでくれた方もいて、うれしかったです。

生産者やソサイソウザイの方から、野菜・料理を作るときのこだわりを聞くことができ、いつでも消費者に良いものを届けようとする真剣な姿勢を間近でみる事ができたことで、自分にもやりがいのある仕事をしたいと思いました。この実践型インターンで、自分の周りで見守って下さった方々がチャレンジを応援して下さい、主体的に動く面白さ、楽しさを感じられました。また目標に向かうための方法を知ることができました。

インターン中は忙しかったけれど、充実した時間を過ごせました。悩むことや大変なこともありましたが、受入先の梅園さんやコーディネーターの岩井さん、他沢山の方々に支えられて頑張ることができたので、人との繋がりはすごいと思います。



宇都宮大学農学部  
農業経済学科 2年  
布袋田 早紀さん



## メディア掲載



プロジェクト数： 7  
インターンシップ参加人数：13名  
のべ活動時間：704.5時間  
受入れ大学：宇都宮大学/東洋大学/  
協力者：15名

### 成果

- ・実践型インターンシップに若者が取り組むことで、新たな価値を創造していくことができると実感した。
- ・大学でのチーム型インターンシップや、企業様と短期インターンシッププログラムが構築でき、その後実践型インターンシップへの流れも生みだせた。

### 課題

- ・受入企業様や挑戦する若者の掘り起しが弱く、案件が少ない。
- ・またこの実践型インターンの成果を発信が弱く、マッチングやインターン挑戦のその先に生まれた受入組織や社会的な価値をより、見える化していく必要がある。

✿ 若者による社会を良くするアイデアプランコンテスト「iDEA → NEXT 2014」



とちぎの新しい物語をつむぐ

iDEA→NEXT は、社会に新しい価値を提供する若者を数多く輩出し、地域の困りごとの解決や社会を良くする活動をサポートすることで、ヒトとマチがイキイキとした地域を創るため、昨年度に引き続き実施しています。

栃木県には、他の地方と同様に様々な社会課題があり、困っている人がたくさんいます。そんな中、「社会貢献」や「地方」といった価値観を大切にしている若者が増えています。内閣府「社会意識による世論調査」によると20代の若者が「何か社会のために役立ちたいと思っている」割合が、45%（2002）→70%（2012）となるなど、確実に若者の意欲は変化しています。

と同時に、厚生労働省「若者の意識に関する調査（2013）」によると「日本の未来を良くしよう」という意欲の質問では、「考えてはいるが、具体的にどのようにすべきかわからない」が26.8%との結果も。想いをもちながらもアクションを起こせていない現状がある中、アクションを起こすきっかけを提供する必要性を感じています。

地域では若者が育まれる現場が少なくなってきています。若者を育むのは学校だけではなく、企業やNPO、地縁組織など様々です。栃木で若者を育み、活かし、また次の世代を育てていく、循環型のエコシステムを実現するためにも、多様な主体とのネットワークを構築することが重要です。そのため、若者のアイデアやアクションを見える化し、企業や地域で活動する人々と若者が繋がる場としても機能させています。

iDEA-NEXT の循環イメージ



「ワクワクする未来」とは？

- ✿ 栃木が今よりちょっと楽しくなる。
- ✿ あなた自身の成長の“きっかけ”になる。
- ✿ あなたのアイデアがサポート企業、団体、社会とマッチングし、より大きなものになる。
- ✿ 多くの人々の笑顔を増やす“きっかけ”になる。

## iDEA→NEXTのプロセス

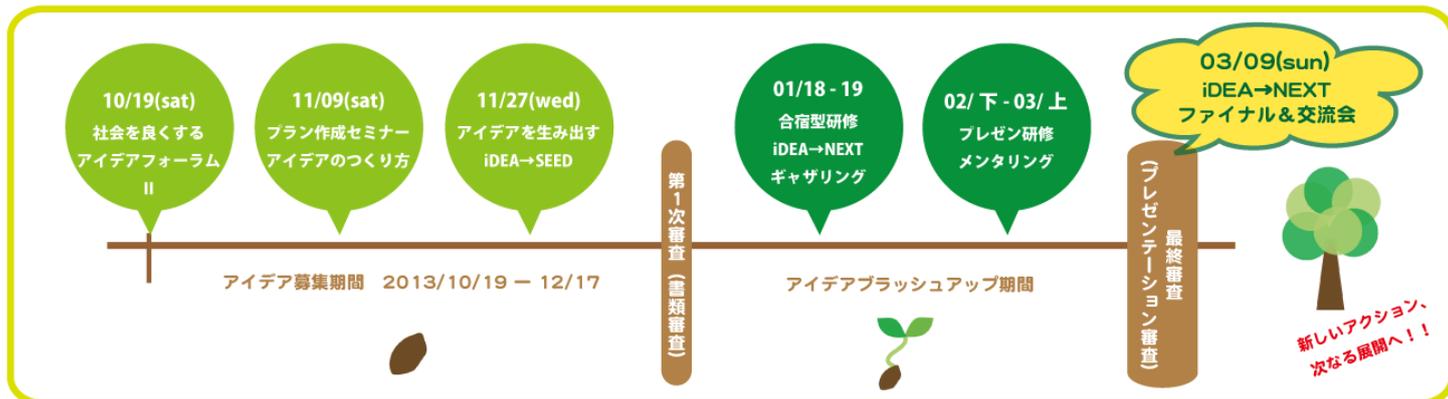
10月19日に始まったアイデア募集を皮切りに、社会を良くするアイデアフォーラムII、アイデアのつくり方、iDEA→SEEDといった若者の中に秘められているアイデアを形にするセミナーを開催し、12月17日に募集を締め。そして第一次審査へ。

厳しい1次審査を通過したのは15組中8組。学生から主婦、若手社会人やNPOの方など幅広い方々でした。1次審査通過者によるギャザリング合宿を実施し、企業経営者やNPOリーダーとアイデアのブラッシュアップを行いました。ファイナリスト同士の交流や、現場で活躍する方々とのホンキの議論がファイナリストたちのやる気に火をつけました。

それから約2カ月、各々がアイデアのブラッシュアップを重ね、実際に足を運び、プレゼンテーションを作りこみ、ファイナルを迎えました。

ファイナリストたちがメンタリングや数々のブラッシュアップを経て、3月9日（日）宇都宮大学工学部アカデミアホールにて、ファイナルプレゼンテーションを行いました。当日は多数のオーディエンスの皆様にご参加頂きました。

ファイナルのプログラムとしてはファイナリストによるプレゼンテーションの他、栃木を代表する社会起業家によるトークセッションを行い、栃木のソーシャルビジネスやNPOへの興味関心を喚起しました。その後のファイナルプレゼンテーションでは、どのアイデアも思いが伝わってくる内容となりました。結果は下記の通りとなりましたが、アイデアは実現してこそ価値があります。本取組みから輩出された若者たちの活動を引き続きサポートし、栃木に生まれた新たな火を応援しています。地域に価値を生み出す若者を輩出するためにも、継続してこの取り組みを行ってまいります。



## ファイナリストの声

- ・理念を語るだけでよかった今までから、実現に向けて向き合わなければならない様々なことを掘り下げる機会を得ることができたと思います。
- ・自分たちのアイデアも磨かれ、自分自身も磨かれたと思う。そしてこの素晴らしいファイナリストの皆さんと出会って一緒に互いを高めあえたことがとても良かった。
- ・たくさんの人に色々な意見を貰うと、こんなに良くなるということに驚きと嬉しさ。そしてプロジェクトを本格的なものにするために、市役所さんや生涯学習センターさん、まちのお店の方など様々な方に会いお話しさせて頂いたが、色々なことを得ることが出来、関わりも増え、応援して下さい、こんなにも活動することが楽しいのか、と素敵な発見が出来たし、可能性はムゲンだ！と（大げさだが）感じた。（もっとたくさんの大学生や若者にこのキモチを知ってほしい。）
- ・ファイナリストに決定してすぐは、甘い考えで応募してしまったと少し後悔した時期もあったのですが、「やれるだけやってみよう」と気持ちを入れかえてからは、素敵な出会いや多くの人からの協力など吸収の日々でした。大変なことも多くありましたが、チャレンジしてみても良かったです。
- ・2ヶ月間があったという間に終わってしまったと感じました。アイデアを出してブラッシュアップする過程を学びました。
- ・応募した時は受かることはないだろうと思っていましたが、受かったと分かり熱が入りました。実際にプレゼンをし、さらに実現に向けて視野が広がったので良かったです。

## ファイナリストとそのアイデアたち

渡邊 貴也 「豊かな体験活動で、子どものやる気スイッチON！～Active Citizen Platform～」	
中島ゼミカクテル班 「宇都宮カクテル広範囲宣伝計画」	
田中 崇子 「キッズクレド」子供たちの夢実現をサポート」	
Project“SSB”実行委員会 「未来にのこしたい！サンパの里「市貝町」の歩く広告塔を作る大作戦」	審査員特別賞
チームすざさち 「来れば愉快だ宇都宮！～外国人に新しい文化を～」	
高田 光紀 「仮想起業失敗体験サービス」	
布袋田 早紀「かんびょうハロウィン」	オーディエンス特別賞
伊川 夢起「LD専門塾の設立」	グランプリ

協賛企業：16社 個人寄付：1名  
 メンター/審査員：19名  
 後援・協力企業/団体：18社/団体  
 運営/WEB/DTP/VIDEOボランティア：11名

## 成果

- ・企業やNPOなど実際に活動されている方々によるメンタリングによって、アイデア応募者自身の成長とアイデアの質が高められた。学外や社外の地域で若者を育てていく土壌とその生態系を作りだす一歩となった。
- ・学生、若手社会人、主婦など様々な立場の方々からのエントリーが15組あり、これまで「何かしたいけど、どうしていいかわからない」層が活動するきっかけとなり、地域で活動する新たな人材を発掘できた。その後、3組がプロジェクトをスタートさせた。
- ・若者が行動を起こすことで社会は良くなっていくという期待感と必要性を発信でき、栃木県の地域づくりに貢献できた。

## 課題

- ・支える協賛企業へのアプローチやファイナルプレゼンテーションへの参加者も当初の目標に至らず、更なる共感を呼ぶ仕掛けの検討や広報方法、運営方法の見直しが必要。

「被災地の仕事づくりを加速させる。若者による復興支援グッズの販路拡大と新商品の開発プロジェクト 2ndシーズン」

若者のアイデアと行動力で、復興を応援する

2012年度に引き続き、被災者の生きがい・やりがい作りとして福島県の仮設避難者等によって作られた復興支援グッズの販路拡大を図ること。復興に若者の力とアイデアを活かすこと。この2点を目的として実施。ユースワークキャンプ活動をベースに現地貢献や交流を行い、(1)復興支援グッズの栃木県内での販売促進や(2)イベントの開催、(3)新商品の開発・販売を通して、復興活動を支え、現地の方の生きがい/仕事づくりを行いました。イベント中心の販売だけでなく、カフェや本屋など7店舗に常設設置していただくことができ、買う/知る機会を広げることができました。また、震災を風化させないように現地の生産者を取り上げたニュースレターや実際に生産者に会いに行くツアーなどを通して、現地の状況を広く発信しました。活動主体は、昨年度立ち上がったユースと学生や若手社会人を中心にしたとちぎ手仕事支援プロジェクトFukuFuku。

FukuFukuの役割

1. 商品に込められた想いとその物語を伝えています。
2. 使う人の反応をフィードバックしています。
3. 作り手、売り手、使い手(買い手)の3者が出会う場をつくっています。
4. 販売する店舗の想いを発信しています。



買うで広がる笑顔の輪

「こうやってみんなとおしゃべりしながら、作業に夢中になれる時間が、私たちにとってはすごく大切なんだよ。」これは福島県いわき市のとある仮設住宅で出会った1人の女性の言葉です。商品を知ってもらい、購入してもらおうことが、生産者の仕事だけでなく、仕事場というコミュニティややりがいを生んでいます。FukuFukuが大切にしているのは、笑顔。商品を作る生産者が楽しい時間で笑顔になる。販売する店舗が商品のことを知り笑顔になる。買い手が素敵な商品に出逢い笑顔になる。そんな笑顔のたくさん広がっていく活動を今後も継続して行っていきます。

サポートしている手仕事商品

**広野手芸有志** 福島県広野町  
広野町からいわき市に避難し、仮設住宅に住むおばあちゃんたちが手作りで商品を作っています。どの商品も素材やデザインにこだわっており、1つ1つ丁寧に作られています。パワフルなメンバーの方々は、新商品を続々開発しています。

**NPO法人ザ・ピープル** 福島県いわき市  
20年以上前から、いわき市を中心に古着のリサイクル業に携わっています。震災後は、いわき市で災害のボランティアセンター運営と、いわきオーガニックコットンプロジェクトを行っています。

**自立研修所ビーンズ** 福島県南相馬市  
手仕事商品の製作・販売を通して、障がい者の雇用支援を行っています。暖かい雰囲気でのビーンズでは、様々なアイデアを用いたり、外部からの協力で、新商品の開発にも力を入れています。

**NPO法人トチギ環境未来基地** 栃木県益子町  
環境保全を通じて、人と緑を育む活動を続けている団体です。津波によって大きな被害を受けたいわき市の海岸林。美しい景観と海岸林本来の機能を取り戻すために、2012年より市民の力で海岸林再生を目指す「苗木forいわき」プロジェクトに取り組んでいます。

▼ ユースワークキャンプinいわき  
日時：5月～3月まで奇数月1回(計6回/1泊2日)  
参加人数：計37名  
内容：復興に向けた様々な活動への参加、現地活動団体訪問等

▼ 新しい流通のネットワークをつくる販売協力店舗と消費者の開拓

- 内容
- (A)商品の継続的取扱い店舗の開拓 設置：7店舗
  - (B)ふくふくだより(ニュースレター)の発行  
発行回数：5回 総発行部数2550部
  - (C)復興イベントでの商品販売  
実施回数：5回
  - (D)手と手が出会う旅  
実施回数：2回 参加者数：13名 協力団体：5団体
  - (E)販売店舗と福島県の生産者がつながる現地訪問ツアー  
実施回数：1回 協力団体：3団体
  - (F)原発事故の影響や福島の今を伝える映画ミニ上映会の開催  
実施回数：2回 協力団体：3団体 参加者数：14人

参加人数(のべ)：221人  
活動時間：1511時間 協力者(のべ)：72人  
取扱商品：9品目 総売上個数：504個数  
総売上金額：187,522円

**2tree cafe**  
宇都宮市西原3-3-14

**Cafe Mario**  
宇都宮市昭和2-9-20

**Minor Swing**  
宇都宮市中央1-6-4

**ふくふく亭**  
宇都宮市東峰町3101-60

**BOOK FOREST**  
芳賀郡芳賀町祖母井368

**Village Stone Cafe**  
小山市大行寺1108-34

**コミュニティカフェスペース カヌク**  
日光市今市741

販売協力店舗

成果

・震災関連死の数が直接死の数を越え、先行きが不透明な生活を送る福島県では、若者と出会い・交流する事での活動への刺激や目標・希望、日々の充実などが、再建に向けての土台となるモチベーション向上に繋がっている。

課題

・買う機会の拡大を実現することはできたが、商品の売上アップには依然課題が残る。店舗への聞き取り調査や売り方・見せ方の検討を通して、より効果的な販売方法や活動の説明などを伝えていきたい。

## 「地域中小企業の人材確保・定着支援事業」

### 学生の働く×魅力的な中小企業

就職環境の悪化による大学生の雇用のミスマッチを解決するため、中小企業・小規模事業者の魅力発信と将来を担う若手人材のキャリアサポートを目的とし、株式会社ティビィシー・スキヤットから事業発注を受け実施しました。学生と企業の両者からのニーズを受けとめ、県内大学のキャリアセンターからの協力を得ながら、若者と企業をつなげるプログラムを新規開発しました。2014年度も同様に本取組みをブラッシュアップしながら、取り組んでいきます。

#### ▼ 働く人図鑑

日時：7月 3回、11月 3回 計6回  
 実施大学：宇都宮大学、白鷗大学、作新大学  
 内容：魅力的な中小企業の経営者やスタッフの話を聞く動機づけプログラム

#### ▼ ホンキのインターンシップ

内容：2週間限定の社員となり企業の新規プロジェクトに挑む

#### ▼ 社長留学

内容：地域密着型企業経営者の3日間のかばんもち

#### ▼ 31時間の起業セミナー・iDEA→SEED

内容：自分にもできるを体感し、起業・創業を将来選択のひとつとする実践型セミナー

#### ▼ 20代のワークデザイン

内容：20代の若手社員向けのキャリアデザインプログラム



参加人数（のべ）：211人 活動時間：1398時間  
 協力者（のべ）：52人 受入/協力企業：16社

### 成果

- ・若者に「働く」や「仕事」に触れる機会と想いを高める実践的な挑戦の場を提供し、仕事への意欲やキャリア選択の充実、また栃木の魅力的な中小企業の発信を行う事ができた。
- ・若者が栃木の中小企業に目を向けることで、雇用のミスマッチ改善や地域の活性化に向けた若い人材の確保のきっかけとなった。併せて学生から意識されることで、中小企業自身にも若者を活かす方を検討する機会になっている。

### 課題

- ・学生が企業や社会へ求めるものと、企業が学生に求めるもののギャップがあり、若者の力を必要としている中小企業へ目を向ける機会の継続性の大切さを実感している。就活を意識しだす3年生より前の段階からの継続的な取り組みを今年度実現させたい。

## 「県協働推進事業 とちぎ県民協働フェスタ2013 -人と地域を元気にするソーシャルプロジェクト見本市-」

### 社会を良くするプロジェクトの駅前見本市

街を住みやすくする活動、芸術や文化を高める活動、困った人を助ける活動など、NPOや各種団体が行う市民活動への理解を深め普及するとともに企業の社会貢献活動や団体等の日頃の活動を紹介し、市民参加を促すためのイベントとして開催しました。ララスクエア宇都宮前のペデストリアンデッキを会場とし、体験メニューや飲食などバラエティ豊かなブース設置や「ゆるキャラ」の配置、寄付チケットの販売といった、より多くの人が興味を持ち、また活動参加のきっかけとなりやすい仕掛けを設けました。

#### ▼ とちぎ県民協働フェスタ2013

##### -人と地域を元気にするソーシャルプロジェクト見本市-

日時 11月3日（日）10：00～15：00  
 場所 ララスクエア宇都宮 2階ペデストリアンデッキ  
 （宇都宮市駅前通り1-4-6）  
 内容  
 1.見本市形式による社会貢献活動(プロジェクト)紹介  
 2.雑誌「ソトコト」編集長によるセミナー  
 3.見学・体験プログラム  
 4.物品販売(日頃の活動の一環のもの)  
 5.寄付券の販売と『ソーシャルプロジェクトブック』の配布



参加団体数：26団体 来場者数：5400人  
 協働セミナー（同時開催） 寄付券販売：72,000円

### 成果

- ・参加団体数は26団体であり、厳正な審査を基に決定された。その結果、来場者数5400人を超え、2012年開催時の800人を大幅に上回り、例年を大きく上回る波及効果を得ることができた。また、実施にあたり多数のボランティアや関係機関との協働を実現した。また、「とちぎ県民協働セミナー」を開催。月刊誌「ソトコト」編集長による講演を行い、他県におけるソーシャルプロジェクトの実例について知識を深めることができた。

### 課題

- ・ブースの作り方やPRや手法についてノウハウを高めることで、より来場者の興味関心を引くことが可能になる。また、協働の範囲を広げ、さらに多くの関係機関やボランティアの集う場として成長させていきたい。

✿ その他事業

(1) トチギ遊学

とちぎのヒト・モノ・コトを楽しみ、チイキで遊ぶ  
新しいことをはじめたい、学びたい人を対象に、社会や地域に関わるきっかけづくりや地域を楽しみ、好きになる場づくりを目的に、有機農家のはたけで農を知る／感じる農体験とシェフに学ぶ料理教室「FARM+KITCHEN」(5回)を実施した。

大学生から会社員、子育てママ、年配者など年代を越えたのべ70名の参加があった。  
10月に新たな運営組織を立ち上げ、事業が独立。  
(NPOトチギ遊学)。



<成果>

・農や食といった身近な社会的関心を気軽なツアーとしてプログラム化することで、多様な参加者に社会への関心や参画を促すプログラムとして機能することができた。

(3) 栃木県まちなか元気会議事業  
「まちなか元気若者会議」

とちぎのソーシャル系学生、集う

地域づくりの担い手となる意識を育み、他者と繋がっていく意欲・力を醸成することで、地域での若者の取り組みを加速させるネットワークづくりを目的に、社会貢献活動に取り組んでいる大学生を対象に実施。  
参加者30名。



<成果>

・学生で社会的な活動をしている人は多くなく、周囲に理解されないことで行動に不安を感じてしまっているが、同じように活動している学生同士が交流することで、活動の継続と挑戦を加速させることができる。  
・普段関わることのない活動を同じ学生からの言葉によって知ることによって、新たな興味・知識の掘り起しに繋がった。

(5) 日本ボランティアコーディネーター研究会2014  
～新たなる希望を生み出すボランティアの力(チカラ)～

ボランティアコーディネートを実践または研究する人たちが一堂に集い、現代社会のニーズに即したコーディネーションに関わるテーマを抽出し、実践交流、協議することで、現場のコーディネーションを質的に向上させることを目的としており、地方では初となる栃木県の開催。県内のコーディネーターで構成する実行委員において協議して進め、課題の解決につながるプログラム作りを行った。その中で当会は事務局をつとめ、実行委員の活動をバックアップした。栃木県内の実行委員34名、当日は2日間併せて213名の参加があった。



<成果>

・栃木開催できたことで、栃木に新たな市民社会の基盤を構築することができた。なお、自分たちの想い・力で周囲を巻き込み、課題を解決していく選択肢を全国に向けて伝えることができた。

(2) green drinks Utsunomiya

餃子以外の楽しみあります

世界の800都市以上で開催されているグリーンやサステナビリティをテーマにした飲み会で、宇都宮の暮らしを楽しむための飲み会をコンセプトに、宇都宮市内のコワーキングスペース「Hottan」と共同開催。



新しいまちづくりのプレイヤーと出会うことを目的に、奇数月を担当し、計5回の開催で、51名の参加者を得られた。

<成果>

・他の団体との共同開催やテーマを変え、気軽に参加できる環境にすることで、これまで出会えなかった人たちと出会い、交流することができた。遊ぶ選択肢が少ない中、地域の魅力を掘り起し、選択肢を増やす取組みは、地域を楽しくする重要なファクターとして発信できた。

(4) とちぎ学生未来創造会議(共催事業)

出会い、繋がり、語り合う

栃木県内の大学生が、大学を越えて集い、未来や社会について語りあい、地域社会への主体的な一歩を踏み出してもらうことを目的に、国際医療福祉大学、白鷺大学、青年会館、社会福協議会、社会教育団体が構成された実行委員会を組織し、夏と冬に2回の合宿プログラムと夏にセミナーを提供した。のべ参加者72名、のべ協力者36名。本事業で意欲が高まり、当会のインターンシップやプログラムに参加する学生も多い。今後も連携した形で、大学生と社会を繋いでいく。



<成果>

・とちぎ学生未来創造会議を通じた違う大学の学生との出会いや地域社会への意識が、参加学生の次のアクションや新たなつながりを生み出していた。その他、企画運営に携わる実行委員(大学先生・職員等)との事業連携なども生まれた。

またその他にも下記の事業を実施。

・31 books

起業講座に参加した学生とともに、イベントで実際に古本を販売。

・中退フォーラム

・講師派遣

「YMCA新入社員研修」講師、  
「WHYからはじまるワクワクボランティアコーディネート」講師、「ワカモノフェスタ若者シンポジウム」パネラー、「日光活学舎」講師、「起業の実際と理論」講師、「JICA駒ヶ根30周年セミナー」講師



31 booksの様子

参加者(のべ): 414名 プログラム実施回数: 30回  
企画運営ボランティアスタッフ: 4名 協力者: 73名  
総活動時間: 1898時間

※(1) 県民協働フェスタは参加団体換算  
(2) 日本ボランティア研究会2014は除く

古本で若者のチャレンジを支える寄付のしくみ 「ホン de チャレンジ」



読み終えた本が寄付になり、若者による社会を良くするチャレンジをサポート

ご自宅や職場で不要になった書籍やCD、DVDを株式会社バリューブックスが買い取り、その相当額をNPO法人とちぎユースサポーターズネットワークに寄付するプロジェクト。いただいた寄付は、社会を良くしようと活動する若者のプロジェクトに活用しています。

栃木県内だけでなく、日本全国から多くの方のご支援をいただくことができました。誠にありがとうございます。  
※株式会社バリューブックス様との協働事業です。



2013年度寄付について



71人



7,175冊



125,938円

今年度はインターン生（渡辺貴也）が取り組んだプロジェクトにより、以下の団体様に古本回収BOXの設置をご協力頂きました。



宇都宮市まちづくりセンター  
“まちびあ”



下野新聞 NEWS CAFE



栃木県青年会館”コンセーレ”



宇都宮市社会福祉協議会  
ボランティアセンター



とちぎボランティアネットワーク

(敬称略)

また今年度は栃木県シルバー大学校南校の皆様より多くの寄付を頂くことができました。厚く御礼申し上げます。  
なお寄付金125,938円は当団体の事業「iDEA→NEXT」運営資金に充てさせて頂きました。  
iDEA→NEXTにつきましては本報告書の8P～9Pをご覧ください。

これまでの寄付総計

期間：2011.10.01 ～ 2014.03.31



187人



17,688冊



352,874円

成果

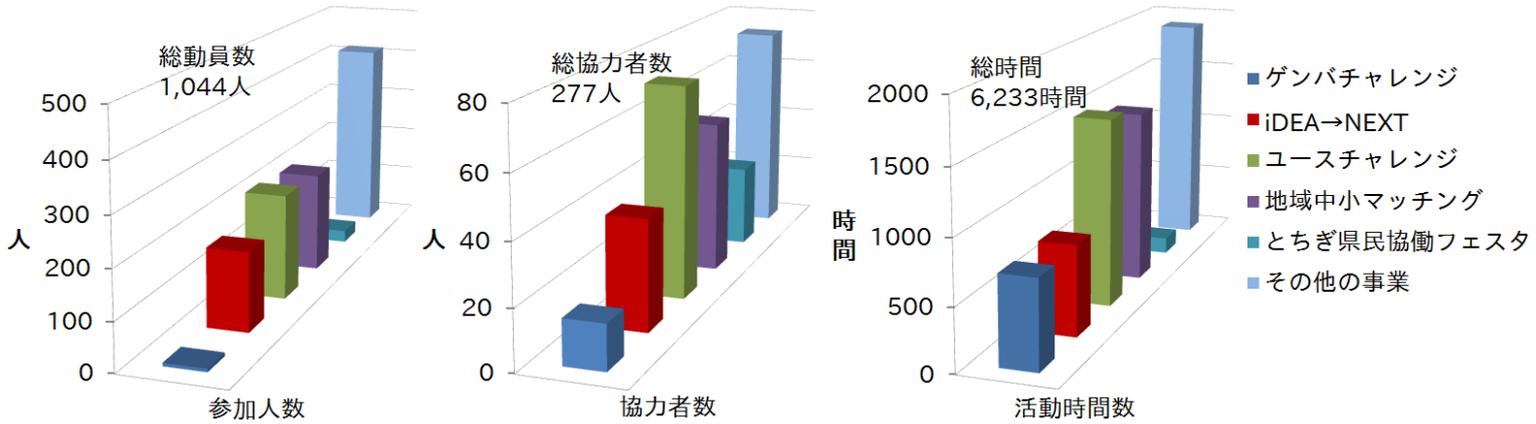
・インターン生の加入により、これまでで最高額の寄付を集められ、新しい取り組みにも挑戦できた。

課題

・この仕組みをより多くの方に知ってもらい、使ってもらえる取組みが不足していた。より多くの方に寄付という参加の形を提案できる可能性を秘めているため、こちらから積極的にアプローチする方法を検討したい。

✿ 数字でみるユース① (参加者数等)

※ (1) 県民協働フェスタは参加団体換算  
 (2) 日本ボランティア研究集会2014は除く



✿ 数字でみるユース② (情報発信)

Official WEB	ユーザー数 (UU)	17,729
	ページビュー数 (PV)	50,146
トチギ ソーシャル ニュース BLOG	ユーザー数 (UU)	32,297
	ページビュー数 (PV)	132,804

	いいね数	662
	フォロワー数	556
	メルマガ配信数	792

(2014.3.31現在)

✿ メディア掲載

提出日	媒体名	プロジェクト名	記事タイトル
2013年5月19日	下野新聞 朝刊	ユースチャレンジ	福島県いわきで復興支援をしよう
2013年5月20日	下野新聞 朝刊	green drinks Utsunomiya	飲み物片手に宇都宮談義を
2013年6月6日	朝日新聞 朝刊	トチギ遊学	野菜作りや料理学ぶ「プチ自給自足講座」NPO22日から全5回
2013年6月15日	下野新聞 朝刊	トチギ遊学	宇都宮NPO法人 原発事故後…豊かな暮らしとは
2013年7月4日	下野新聞 朝刊		NPO法人が宇都宮で12日マニフェスト読み比べ
2013年7月10日	朝日新聞 朝刊		政党選びネット活用 若者らに動き広がる
2013年7月13日	下野新聞 朝刊		肩肘張らず政治語る 20代若者 公約読み比べ 宇都宮
2013年8月8日	東京新聞 朝刊	地域中小マッチング	NPOが学生、若者対象に募集 社長と過ごす3日間
2013年8月23日	朝日新聞 朝刊	ゲンバチャレンジ	農家-惣菜店-消費者 3者結ぶ手作り情報誌 宇都宮の惣菜店インターン学生 声を取材 編集も
2013年8月30日	東京新聞 朝刊		「目標なき中退」考える 14日宇大でフォーラム
2013年9月15日	下野新聞 朝刊		地元企業で課題に挑む 若者の提案実用化例も
2013年9月21日	下野新聞 朝刊	ホンdeチャレンジ	古本 若者の活動資金に
2013年9月25日	東京新聞 朝刊		「みんなdeごはん」助け合い フードバンク普及 ひと役
2013年10月31日	下野新聞 朝刊	ソーシャルプロジェクト見本市	月刊「ソトコト」編集長発信!とちぎ県民協働セミナー開催
2013年10月31日	下野新聞タブロイド紙	ソーシャルプロジェクト見本市	(広告掲載)
2013年11月4日	下野新聞 朝刊	ソーシャルプロジェクト見本市	宇都宮駅前で「協働」PR 県民フェスタに27団体
2013年11月5日	毎日新聞 朝刊	ソーシャルプロジェクト見本市	JR宇都宮駅で初「県民協働フェスタ2013」 社会貢献26団体 活動紹介に手応え
2013年11月22日	よみうりタイムズ (栃木南部)	ユースチャレンジ	福島の手作り品を出品 天平の芋煮会で販売
2013年12月5日	下野新聞 朝刊	iDEA→NEXT	未来の地図を描いてみよう 若者対象にアイデア募る
2013年12月	トチベ12月号	iDEA→NEXT	広告掲載 一次審査募集
2014年2月3日	下野新聞 朝刊	日本ボランティア研究集会2014	つながる仕組み考察 コーディネーターら集会
2014年3月15日	下野新聞 朝刊	iDEA→NEXT	宇都宮でアイデアプランコンテスト 若者の発想で地域活性化を

メンバーからのメッセージ



若者とともに！

松本昌宏さん  
運営会員  
日光市社会福祉協議会

これからどんな社会が待っているのか・・・？避けることの出来ない高齢社会、確実に到来する人口減少社会。さらに、人や社会とのつながりの希薄化。若者たちにとって、先の見えない、生き辛い世の中なのかもしれません。そんな若者たちに、常に「チャレンジ」の場を提供し、自立の促進や社会変革のチカラと可能性を追求するユースの実践は、若者たちにとって不可欠な「支え」であると同時に、ユースワーカーとして活動している私自身にとっても大きな「支え」となっています。これからは、新たな価値、未来を創造できる若者たちをサポートすべく、ユースとともに走り続けていきたい・・・そう思っています。



学生が会いたくなるNPO

濱野将行さん  
チャレンジ会員  
国際医療福祉大学(H26.3月卒) 医療機関勤務

「何か活動したい」この想いを抱く学生は想像の何倍も多くいます。でも、今の社会にはその想いを吐き出し、形にする場が少ない。そこに自分の想いを真剣に語る「あの」楽しさや、行動に繋げて得る「あの」わくわくを実感する場を作るのがユースです。「あの」喜びを知った学生は、活動することを戸惑いません。だからこそ、ユースが学生の活動場所を作るのには非常に大きな意味を感じています。深夜も休日も、学生の活動場所を作るためにいつも一生懸命なユースと、私は社会人になった今も活動しています。



若者の可能性を広げて

林 書緯さん  
運営会員  
株式会社グリーンデイズ代表取締役

最近の若者は元気がない、ゆとり世代はなどと、ときどき耳にしますが、本当にそうなんだろうか。実はわれわれ大人が、しっかりと一人ひとりと向き合わずになんとなく全体のイメージでそう言っているのではないか。岩井代表理事にはそんなことを気づかせていただきました。いつの時代もヤル気ある人となりがいて、ユースさんはそのヤル気ある若者にしっかり可能性を広げさせ、モチベーションを高めさせ、サポートをしていく。まさしくわれわれ大人がすべきことであり、社会がしていくことなんだと思えました。ずっと応援します。とちぎユースサポーターズネットワーク。



背中を押してくれる場所

小野塚夕佳さん  
チャレンジ会員  
宇都宮大学 国際学部

休学期間を終えて初めて参加したイベントが、ユースの開催したGENBA CHALLENGEの活動報告会。それをきっかけにして、ユースが発信する情報に興味を持つようになりました。「何か挑戦したいなあ」と漠然と考えていた2013年の夏、ユースのインターン案内と自分がやりたいことがマッチングしたことで、即参加を決めました。実際に参加したインターンでは、これまで携わってこなかった分野に飛び込み、非常に濃密な三週間を過ごすことができました。インターンをきっかけに関わり始めた私にとってのユースは、「背中をグイッと押してくれる場所」。何か挑戦したい、面白いことがしたい、、、そんな風に思ったときに、真っ先に思い浮かぶ場所です。



心強い応援団！

内藤さつきさん  
運営会員  
契約社員・起業準備中

「はじめまして」の挨拶をした時は、ビジネスパートナー。今は？なんだろう…。私の夢を応援してくれる心強い応援団。でも、それだけじゃない。キラキラ輝いている学生たちの夢を応援し隊の一員にもなっています。「輝く未来を生きる子ども（若者）たちのサポートがしたい」と思って教師をしていたこともあったけど、まさか、こんな形で携わらせてもらうことになるなんて！！関わり方って色々あるんだなあ…と刺激をもらう日々です。もっともっと仲間が増えたらうれしいな！



夢を追いかけてたどり着いた秘密基地

渡邊貴也さん  
運営会員・2013インターン生  
那須烏山市地域雇用創造協議会

自分の志を生きたいという想いを抱き、闇雲に様々な活動を渡り歩いていた頃に出会ったのがとちぎユースサポーターズネットワークでした。「ここでなら自分のこれからのヒントが見つかるかもしれない」すぐに決心し、半年間のインターン活動を申込んだのを覚えています。スキルも人脈もなかった私に、ユースは価値観を変えるような出会いやチャンスは沢山与えてくれました。ここで培ったスキルやマインドは、今の大きな自信に繋がっています。インターンを終えた現在でも、ユースは自分の背中を押してくれるかけがえのない存在です

支えてくださっている企業・団体のみなさま (敬称略)

正会員／賛助会員

株式会社キッズコーポレーション  
社会福祉法人正恵会  
NPO法人トチギ環境未来基地  
一般社団法人とちぎ青少年自立援助センター  
有限会社ドンカメ  
株式会社ビルスタジオ

IDEA→NEXT協賛

《パートナー企業》  
株式会社キッズコーポレーション  
株式会社クルール・プロジェ  
シーデーピージャパン株式会社  
株式会社新朝プレス  
有限会社ドンカメ  
株式会社ファーム・アンド・ファーム・カンパニー  
株式会社マチツクリ・ラボラトリー

《サポーター企業》  
株式会社オーリアル  
有限会社国分寺産業  
株式会社五光宇都宮店  
株式会社サムライトサムシング  
NPO法人トチギ環境未来基地  
一般社団法人とちぎ青少年自立援助センター  
企業組合とちぎ労働福祉事業団  
日光活学舎プラットフォーム  
はやき風株式会社

✿ 活動計算書

2013年4月1日から2014年3月31日まで (単位：円)

	ゲンチャレ	アイデアネクスト	ユースチャレンジ	中小企業	復興販売	ホンチャレ	フェスタ	事務局	合計
<b>【経常収益】</b>									
会費収入								425,500	425,500
受取寄付金						112,161		602,679	714,840
協賛金収入	30,000	300,000							330,000
助成金等収入			2,990,000						2,990,000
委託費収入				3,054,450			1,830,000	960,750	5,845,200
参加費収入		168,500			5,500			246,000	420,000
その他事業収入	1,100				187,522	16,400		14,000	219,022
受取利息収入								505	505
雑収入								123,877	123,877
経常収益 計	31,100	468,500	2,990,000	3,054,450	193,022	128,561	1,830,000	2,373,311	11,068,944
<b>【経常費用】</b>									
事業費									
人件費			1,680,000				436,000	4,722,438	6,838,438
その他経費	87,753	565,081	1,323,650	137,437	212,953	34,523	683,808	502,549	3,547,754
事業費 計	87,753	565,081	3,003,650	137,437	212,953	34,523	1,119,808	5,224,987	10,386,192
管理費									
人件費								7,500	7,500
その他経費								1,332,109	1,332,109
管理費 計								1,339,609	1,339,609
経常費用 計	87,753	565,081	3,003,650	137,437	212,953	34,523	1,119,808	6,564,596	11,725,801

	ゲンチャレ	アイデアネクスト	ユースチャレンジ	中小企業	復興販売	ホンチャレ	フェスタ	事務局	合計
当期経常増減額	-56,653	-96,581	-13,650	2,917,013	-19,931	94,038	710,192	-4,191,285	-656,857
当期正味財産増減額	-56,653	-96,581	-13,650	2,917,013	-19,931	94,038	710,192	-4,191,285	-656,857
前期繰越正味財産額									689,588
次期繰越正味財産額									32,731

(注)特定非営利活動促進法第28条第1項の収支計算書を活動報告書と呼んでいます。

✿ 賃借対照表

2014年3月31日現在 (単位：円)

資産の部				負債の部			
科目	当年度	前年度	対比	科目	当年度	前年度	対比
【流動資産】				【流動負債】			
(現金・預金)				未払金	618,488	667,862	-49,374
現金	159,872	0	159,872	預り金	99,692	89,069	10,623
普通預金	932,929	549,051	383,878	未払い消費税	165,100	133,100	32,000
郵便振替口座	361,500	141,500	220,000	短期借入金	1,000,000	1,050,932	-50,932
事業未収金	0	1,500,000	-1,500,000	流動負債 計	1,883,280	1,940,963	-57,683
立替金	21,710	0	21,710				
流動資産合計	1,476,011	2,190,551	-714,540	負債の部合計	1,883,280	1,940,963	-57,683
				正味財産の部			
【固定資産】				【正味財産】			
(投資その他の資産)				正味 財産	32,731	689,588	-656,857
敷金	440,000	440,000	0	(うち当期正味財産増加額)	-656,857	-2,399,493	1,742,636
投資その他の資産 計	440,000	440,000	0	正味財産 計	32,731	689,588	-656,857
固定資産合計	440,000	440,000	0	正味財産の分合計	32,731	689,588	-656,857
資産の部合計	1,916,011	2,630,551	-714,540	負債・正味財産の部合計	1,916,011	2,630,551	-714,540

✿ 財務に関する分析

これまでの常勤2名に非常勤スタッフが2名加わり、計4名体制となったことで活動の幅、事務局の整備など、設立から5年が経ち、組織基盤の強化を図れた一年となった。

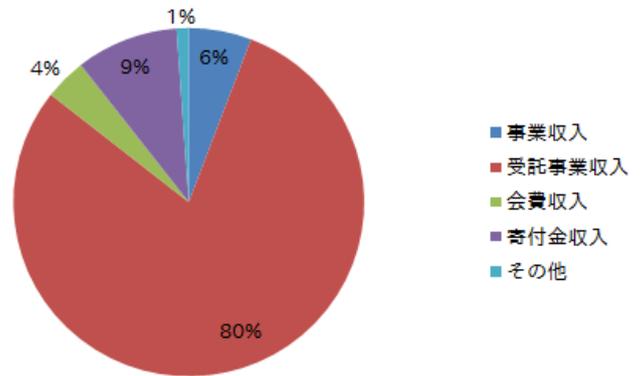
今年度は昨年度の「事業規模の拡大と維持」から、重点目標を定めるなど、活動の効率化・認知度のアップにより、不要な支出を抑え、事業運営の連動性が高まったことで、収入増・支出減となり、昨年度に比べ赤字額減少につながった。

「収入」は、計画していたほとんどの事業を執行することができたが、8割以上が受託事業となり、自主事業の割合が依然少ない。一方会費・寄付金は、活動の認知度アップや協力者の増加により、昨年の1.5倍となった。キャンペーンや継続的な協力の呼びかけにより、共感者を更に広げていくことが、課題を解決する仲間を増やし、ミッション達成に近づくことができるので、次年度の更なるボリュームアップを目指したい。また受託事業の割合を減らし、自主事業を拡大することが急務だが、今年度自主事業の土台をつくることのできたので、次年度は重点事業として取り組んでいきたい。

「支出」の多くは人件費や管理費であり、事業の拡大に伴い、人件費が増加し、▲約65万円となった。しかしその分事業領域も広がってきているので、より効果的な事業収入を目指すことで、収支のバランスをとっていきたい。

インターン事業など柱として取り組んでいる自主事業の仕組みの構築ができたことから、次年度は更なる事業の広がり注力し、若者の力を活かして地域の課題解決/活性化を継続して行える取組み・環境を整備していきたい。

2013年度財政比率



事業収入	639,022円
受託事業収入	8,835,200円
会費収入	425,500円
寄付金収入	1,044,840円
その他	124,382円
計	11,068,944円

# 2013 ANNUAL REPORT

2013.04.01 – 2014.03.31

---

Tochigi  
Youth  
Supporters  
Network\*

NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

〒320-0808 栃木県宇都宮市宮園町8-2 松島ビル2F  
TEL/FAX: 028-612-3341 MAIL: ysn\_office@tochigi-ysn.net  
WEB: <http://www.tochigi-ysn.net>  
Twitter: @youth\_tochigi  
Facebook: [tochigiysn](#) / とちぎユースサポーターズネットワーク